

週日の説教

金 大烈 神父 2008年10月23日(木)

《イエス様は、私たちの模範です》

今日のみ言葉(ルカ 12・49 - 53)は厳しいです。「分裂させるためにイエス・キリストは来られる」と言っています。この話しは何度も説明をしました。

今日、目についたのは、「しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。」という箇所です。

大体、私たちが思い違いをしやすいことの一つは、「神様であり、この世の中に遣わされて、いろいろな奇跡や秘跡などの不思議なことを行われるイエス様が、人間のような痛みを感じられるのだろうか」と考えることです。神聖な力を持ち、たぶん人間的な弱さを十分に乗り越えていくことができるのに、人間と同じように感情的・肉体的な痛みを感じられるのだろうか、と考えてしまうことです。しかし、今日イエス様は、「わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。」とおっしゃっています。そして、ゲッセマネの園で祈られたときには、「あまりにも辛くて血と汗が混じって流れた」という、み言葉の証言があります。

皆様、私たちにもすぐそばで怖いことが起こることがあります。そして、私たちの人生は、先のこと全く分かりません。その中で、てっぺんが見えないくらい高い峠をたくさん乗り越えなければなりません。やはり怖いです。恐れがあります。

その時、イエス様が見せたこの心を見ると何とか乗り越える勇気が出てくると思います。イエス様も全く同じように怖さを感じました。そして自分が歩まなければならない使命の道、呼びかけに応える道を歩めば自分がどのくらい苦しむかをよく知っていました。しかし、その怖さを乗り越えて、自分に与えられた杯を受け入れて飲まれました。そのように考えられれば、自分の前に置かれている難しさを受け入れながらも、「私もあなたに従います、守ってください」という心で乗り越えられるのではないかと思います。

やはり、いろいろな怖さがありますよね。いつも笑顔を見せていますが、私にも怖さがあります。私が怖がっているのは、人間的な痛みではありません。全体的な流れです。自分に与えられた人生の中で、どのように力を出して使命を果たせるのか、どのようにきれいに死ぬことができるのか、それが一番怖いです。そのような時、私はイエス様をどのように真似るべきかと考えます。そして、イエス様でも怖かったのだから、自分がこのような弱虫であることを認めてもいいのではないかと、自分が怖がることをそんなに責める必要はないのではないかと。そう考えることがあります。

皆様、イエス様は私たちにとって模範です。辛いときも嬉しいときも、涙するときも、イエス様がどのような心を見せられたか、よく考えてみましょう。それは、きちんとした考えの道が私たちに与えられる機会だと思います。

ありがとうございました。